

果樹カメムシに対する合成ピレスロイド系薬剤と ネオニコチノイド系薬剤の防除効果

本年は中予地方を中心にチャバネカメムシの越冬量が多く、春から夏にかけて果樹園への飛来が多く確認され、特に落葉果樹で被害が見られた。

そこで、温州みかんにおける合成ピレスロイド系薬剤6剤、ネオニコチノイド系薬剤7剤の防除効果を紹介する。



ももを吸汁するクダマカメムシ



みかんを吸汁するチャバネカメムシ

同じ系統の薬剤でも種類によって防除効果に差が見られた。

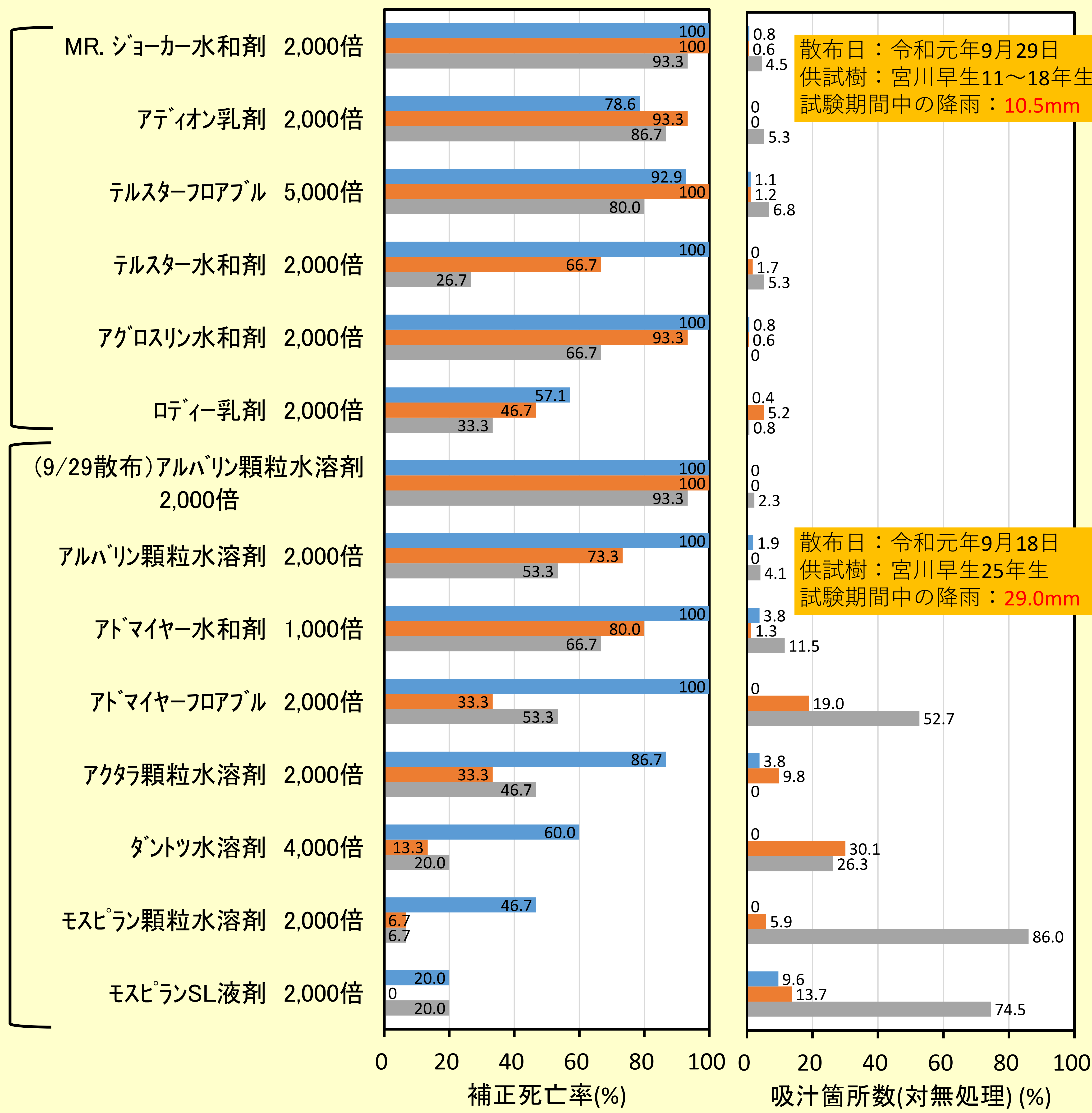
合成ピレスロイド系薬剤は、殺虫効果には差があったが、いずれの薬剤も吸汁は抑えられた。**MR. ジョーカー水和剤**が特に防除効果が高かった。

ネオニコチノイド系薬剤は、散布2日後と4日後に雨の影響を受けたものの、**アルバリン顆粒水和剤**は防除効果が高かった。

合成ピレスロイド系薬剤

ネオニコチノイド系薬剤

■ 散布1日後 ■ 散布4日後 ■ 散布7日後



散布日：令和元年9月29日
供試樹：宮川早生11~18年生
試験期間中の降雨：10.5mm

散布日：令和元年9月18日
供試樹：宮川早生25年生
試験期間中の降雨：29.0mm

補正死亡率(%) 吸汁箇所数(対無処理)(%)